

と返したという。源次郎も「まけた」といったとか。

本田の孫右エ門という人が、鶴ガ城の人足にあげられた時、滝沢村の女のうたげいが、彼の背が低く、真っ黒い顔を次のように笑った。

ほんだまごえむきようがよくて

みやまからすかくろからす

孫右エ門の返し歌は

みやまからすもとぶとりなれば

いしべぎくろもめの下に

この歌を聞いた人足頭が感心して、その日の仕事を免除したという。地名を読みこんだ次のようなのが残っている。この類のものは多い。

ほんだ十二所ほいとのでどこ

ふくろたがきはみやぶくろ

○

かたりましようぞ小松の下で

はらのよねづかとけるまで

○

雨はしんしん降るあそ（麻生）なれど

みのも笠をもちわばら（柏原）